

(様式2(1))

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム アネシス魚崎

作成日:平成 22年 3月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果を元に職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目的が一つも無かったり、逆にたくさん掲げすぎて課題が焦点か出来なくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践が不十分である。 理念の具体化	全職員への理念の共有と、理念に基づいた実践が出来るようになる。	理念の見直しを実施する。 ①各フロア一会議で職員の意見を出してもらう。 ②その結果を元に、リーダー会議にて決定。 ③全職員へ周知する。	3ヶ月
2	6	身体拘束をしないケアの実践。家族を含めた話し合い、安全に配慮しながらの改善策の検討。各ユニットとエレベーターのテンキー操作による利用。	何をもって身体拘束なのか、全職員が理解し、今後も身体拘束の無いケアに取り組んでいく。	①定期的な内部研修を通して身体拘束の無いケアを浸透させていく。 ②カンファレンス等において身体拘束の危険性などを話し合っていく。	6ヶ月
3	26	介護計画の見直しを、現状では状況変化に応じてカンファレンスを開催し、計画の見直しを行っているが、3～6ヶ月程度の定期的な見直しは行っていない。	定期的なカンファレンスと計画の見直しを実施する。	①全利用者の介護計画の見直し時期等を年度ごとに計画を立てて実施していく。 ②カンファレンスは現状定期的に行えているので、今後も継続して実施していく。	3ヶ月
4	8	権利擁護に関する制度の理解と活用	制度の活用が必要な人に適切な支援が出来るよう、研修等で学べるような取り組みの実施。	①年間の内部研修実施計画に盛り込み実施する。 ②外部研修にも積極的に参加していき、参加していない職員にはフィードバックしていく。	6ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo. を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。